

特別養護老人ホームあかつき苑防府

○介護助手の導入の背景（導入の時期、導入前の状況）

介護助手導入前は、業務量が多く、介護職員が本来の介護業務に専念できない状況でした。
そのため、介護助手の導入により、少しでも負担を減らすことができたらし、事業への参加を決めました。



○介護助手の募集方法

山口県福祉人材センターと連携し、介護助手に関する住民説明会を開催しました。

説明会 1 回目（令和元年度）

参加者 2 名。うち 1 名が説明会後の職場体験を経て、採用になるも年度内で退職となりました。

退職理由

- ・ 介護助手の導入が手探りの中、働いてもらいながら業務内容を調整していくことにした結果、介護助手と介護職員の業務内容の線引きが難しくなってしまったこと。
- ・ 介護職員が多忙な中、介護助手の指導者が限られており、指導者が不在時にわからないことをほかの職員に聞きにくい状況であったこと。

説明会 2 回目（令和 2 年度）

- ・ 参加者 8 名。内 5 名が施設見学を経て、1 名（Aさん）が採用となりました。
- ・ 前年度の課題を踏まえ、説明会の時点で介護助手の業務内容を明確に説明しました。
- ・ 参加者の中には体力面で不安を感じている方も少なくなかったので、採用後に業務内容のミスマッチが起こらないように工夫しました。



○介護助手の主な業務内容と選定方法

1. 介護助手の業務内容の明確化

介護助手の業務内容を明確にするために、介護職員が普段行う業務から介護助手に行っていただきたい業務を切り出しました。

○切り出された介護助手の業務

- ・ 食事の準備、誘導、配茶、風呂掃除、洗濯、衣類まとめ、シーツ交換等。

- ・ 中でも

- ①職員体制が少ない時間帯である夜勤明けの朝食時の洗い物

- ②嚥下機能が低下していない方の食事介助

- ③シーツ交換

が現場からのニーズとして多い状況でした。

2. 業務内容の決定

- ・ 介護助手（Aさん）に切り出した業務内容をお示しし、その中から、年齢・経験等に応じて柔軟に業務内容を決めました。

- ・ Aさんが介護経験者であったこともあり、生活援助（居室清掃・シーツ交換）を中心とし、嚥下機能が低下していない利用者（Bさん）の食事介助を専属で行っていただくことになりました。

※嚥下機能の低下している利用者の食事介助については、誤嚥のリスクを考慮し、基本的に介護助手は関与しないことにしています。



○介護助手導入後の業務負担軽減によって生まれた変化・良かったこと

1. 利用者の変化

特に早朝の時間帯の食事介助を行う職員が不足していましたが、Aさんが食事介助に入ることによって、Bさんはゆっくり食事を食べることができるようになりました。

その結果、今まで介護職員の声掛けにほぼ反応がなかったBさんが食事時の声掛けに元気に答える様子が見られるようになり、Bさんのご家族も非常に喜ばれています。

2. 職員の負担感の軽減

介護職員に余裕が生まれ、一人ひとりの入居者に丁寧に対応できるようになっています。

そのおかげで、丁寧な申し送りもできるようになり、入居者の状態変化に気づくことも増えました。

3. 介護助手からの学び

Aさんは居室清掃の際、若い職員が気づかない部分もしっかりきれいにするなど仕事が非常に丁寧なため、大変勉強になると感じています。

○採用後の介護助手へのフォロー

1. 困ったことを聞きやすい環境づくり

入職してから2週間ほどは、ユニットリーダーがマンツーマンでOJTを行い、その後、徐々に現場の職員にバトンタッチしていきます。

そうすることで、ユニットリーダーが不在でも困ったことがあればどの職員にも聞くことができるようにしています。

2. 介護助手の業務内容の共有

介護助手の業務範囲を超えないよう、Aさんと介護職員間でしっかりと業務内容を共有しています。

例えば、突然Aさんが利用者から声をかけられて、介助をお願いされても介護職員を呼んで対応することが自然にできており、Aさんの負担増にならないように気を付けています。

3. 介護助手の負担を軽減する工夫

Aさんが行う居室清掃は、ユニットリーダーがその日に掃除する部屋を決めています。そうすることで、一日の業務量が分かりやすくなり、自分のペースで仕事をしていただけるようにしています。

また、仮にその仕事が時間内に終わらなくても翌日の仕事に繰り越して、残業はしないように調整する等、無理なく働いてもらえるよう工夫しています。

○今後の展望と課題（介護助手への期待、課題解決に向けた取り組み等）

今後は、介護未経験の介護助手の方に対して、どのような業務内容を調整していくかが課題となっています。

その場合、利用者が比較的自立している養護老人ホームやデイサービス等から始めていく等、業務内容だけでなく、働く環境の調整も必要だと感じています。

